

毒

ハ

△

—

〜性縮馬

◎心臓疾患ニ發現スル疼痛感覺

抄 録

ト	ノ	日	ア	禁	レ	イッ	フ
						—	—
						口	ナ

場

Schmerzhafte Empfindungen bei Herzerkrankungen.

本年七月十八日發兌醫學セントラルブラット

ノ一トナケル速

田中正鐸譯

心臟辨膜ノ障害ヨリ發スル心部ニ於テ疼痛ノ感ヲ訴フル患者蓋シ其數少カラス余ハ最モ多クノ實驗ニ徴シ其疼痛ノ因テ以テ起ルノ疾患ヲ証シ得タリ即チ此疼痛ハ動脈口ノ不全閉鎖ニ據リ屢々發スルコトノ最モ極メテ多クシテ左ノ靜脈口ニハ少ナク動脈口ノ狹窄ト不全閉鎖トヲ合併セルモノハ稍ヤ是レヨリ多ク僧帽辨膜不全閉鎖ニハ極メテ罕レナル是レナリ

ソノ疼痛ヲ訴フルヤ胸部窘痛煩悶スルノ他甚タ種々ニシテ或ハ特續性ノ疼痛ヲ心臟部ニ訴ヘ或ハ強劇ノ心動ニ發作シ或ハ異物ノ左胸壁ニ嵌入シテ疼痛スルカ如ク覺ユルアリ又屢々心窩部ノ皮膚知覺敏銳ヲ同時ニ訴

ヒールヘルケ

(抄錄)

金澤醫學會雜誌

第三卷第二十四號

(四百二十三)

フルモノアリ已上述フル疼痛感ニ類似スル疾病ヲ舉示スレハ心臟辨膜疾患ナキ彼ノ心筋肉炎、脂肪心、特發性心臟萎縮特ニ心萎縮ニ合併セル動脈管硬變ニ於テ發スルモノナレハ患者訴フル處ノ疼痛感モ此場合ニ於テマダ屢々困難ナル診斷ヲ助クル一助タルヘケン

◎「ゲルセミウム」ノ局部痙攣症及ヒ神經痛ニ於ケル作用ノ注意

Notes on the action of Gelsemium in some local spasms and Neuralgias

Inogene Basselt氏ハ「ゲルセミウム」ヲ神經性、痙攣性諸多ノ疾患特ニ痙攣性斜頸、三叉神經痛ニ應用シテ著明ノ効ヲ奏シ得タリ然レハ之ヲ適用セシムルニハ屢々久シキ連用ト大量例令ハ「ゲルセミウムエキス」ノ二一十五氏ヲ日ニ數回服用シテ中毒症狀タル頭痛、眩暈、複視等ヲ發スルニ至ラシメサレハ著シキ卓効ヲ期スル能ハ

サルコトアリ

正鐸曰「ゲルセミウム」ハ既ニ歐州先哲著述ノ藥物論ニ記シテ三又神經痛ニ効チ奏スルヲ述ベタリ然レモ新ニ之レニ記載スルモノハ世醫ノ之レヲ試用スル少ナキニ據ル之レ日本ノミナラス本年七月十一日發兌ノ「ゼナートル」及ヒ「ザルコウスキー」ノ大家ニ成レル雜誌ニスラ耳新シク報スルヲ見タリ正鐸ノ不敏モ既ニ四年先キニ是レヲ亞米利加局法ニ知ルモマタ目新シク是レヲ記載スルハ諸君ノ試用アランコトヲ企望スルノ意ニ他ナラサルナリ獨醫 Kalscher モ是レヲ促セリ

右醫學セントラールプラット九月着

田中正鐸抄譯

◎石炭酸龍腦

(Phenolkampher)

(Zeitschrift f. Therapie No. 12, 1891)

石炭酸龍腦ハ一分ノ石炭酸ト三分ノ龍腦ヲ二十四時間ニ溶解セシメタル稠厚ノ液ニシテ〇、九九ノ比重ヲ有スル者ナリ Cochrane 氏ハ之レヲ直接或ハ等分ノ油ト混シ防腐藥トシテ「ガーセ」或ハ綿花ニ侵シテ用エ又器械ノ消毒ニ應用セリ又之レヲ皮下ニ注入スルキハ充分局所ノ麻痺ヲ起シ得ルト

石炭酸龍腦ハ「アルコール」「エテル」脂肪及依的兒性油、「ヘンチン」ニ溶解スト雖モ「クリスリン」、水ニハ溶解セス又メントール、コカイン水楊酸沃度仿謨含水コロラール格魯兒水銀ハ石炭酸カレフォルニ溶解ス

◎慢性中耳化膿ノ一療法

(Amer. J. of the med. sc. 1891)

Ch. J. Colles 氏ハ慢性中耳化膿ニシテ他ノ療法ノ効ナキニ「ファル」ニ骨瘍性ノ槌骨ヲ除去シテ膿排泄ノ廢止シ聽覺ノ大ニ快復セシ者ヲ經驗セリ

◎ 舞蹈病ニ「エキサルキン」

(Bull. gen. de therap. etc. No. 44)

Moncorvo 氏ハ舞蹈病ニ「エキサルキン」ヲ稱用セリ之レ
ヲ用フルルハ第五日目ヨリ己ニ諸症狀減退シ十八日ニ
シテ充分治機ニ達スヘシ例之長クトモ三—四週ニハ全
治スルト云フ

◎ 氣管ノ原發性癌腫

(Prager med. Wochenschr. No. 6.)

Chiari-Pick 氏ハ五十七歳ノ一男子ニノ原發性癌腫ヲ氣
管ニ生セシ稀有ナル「ファル」ヲ報告セリ該患者ハ聲
音嘶哑呼吸困難、及咯血ヲ患ヘシカ氣管截開術後六週
ニシテ甚タシキ出血ノ爲メニ死セリ之レヲ剖檢セシニ
氣管ハ其右壁ニ於テ厚サ三、五仙迷ノ腫瘍ヲ有シ前及
后壁ノ一部モ之レカ侵潤ヲ被リ且ツ兩氣管支右肺炎、
食道、甲狀腺、下行頸靜脈モ之レカ爲メニ侵サレタリ而

ノ顯微鏡上此腫ノ癌ナルヲ證明セリト云フ

◎ 癩癩ニ「アミンピドラト」

(M. m. W. No. 4, 1891)

Dreus 氏ハウイルデルムート氏ニ倣ヒ甚タシキ癩癩ノ
發作ヲ有スル者ニ「アミンピドラト」ヲ用ヒテ良効
ヲ得タリ然レモ三十五歳ノ患者ニ於テ嗜眠、食欲欠亡
ヲ來セシヲ經檢セリ

◎ 耳疾患ニ「ナフトル」(B)

(Centralbl. med. Wiss. No. 26, 91)

Haug 氏ハ「カリエス」ノ如キ他ノ疾患ヲ合併セサル慢
性中耳疾病ニ「ナフトール」(Naphthol)ヲ稱用セリ
蓋シDrapsac氏膜ノ穿孔セル者及肉芽様ノ變化アル者
ニハ用フヘカラスト雖モ該粘膜結核性ノ疾病及ヒ中耳
化膿ニシテ他藥ノ効ナキ者ニ卓効アリ、短キ者ハ六乃
至二十日ニシテ奏効スル者アリ

◎ 腦膜炎ト包膜菌

(Fortschr. d. Med. 1891, No. 8)

Kooken 氏ハ化膿性腦膜炎患者ヲ解剖シ腎及肝中ニ存スル膿竈中ヨリ「テッキグラス」或ハ切片「プレパラト」ヲ造リプレトレンテ氏胞膜菌ニ類スル「カプセルバチルス」ヲ發見セリ之レ容易ニ偏平培養ニ由テ分離スヘク、「ゲラチン」「アガル」ニハ初メヨリ液化スルコトナクノ蕃殖シ純培養ヲ以テスルモ美麗ノ懸點トナリテ現ハル此包膜菌ハクラム氏法ニ由テ染色スヘク、鼠ニ種接スルキハ一日ニ死シ其部ニ水腫ヲ起シ又屢々膿瘍ヲ形成ス、メールシウインヘン及兔ニ靜脈注入或ハ腸間膜ニ注入スルキハ死亡スフリトレンテル氏菌トノ主ナル區別點ハ兔ニ皮下注入スルキハ直チニ死亡スルニアリ

◎ 小兒ノ胃病ニ胃洗條

J. W. Troitzky 氏ハ無熱ノ消化不良ニ胃洗條ノ卓効アルコトヲ經驗セリ蓋シ單純ノ者ハ此療法ニ由テ速ニ治シ胃及腸ノ消化不良ハ少シク永ク消化不良ノ慢性ナル者ハ從テ永時ヲ要ス一又小兒虎列刺ニモ胃洗條ハ他ノ療法ト併用スヘク慢性ノ胃及腸疾ニハ此療法ト同時ニ内服藥適當ノ食餌ヲ與フルヲ必要トス

◎ 格魯布性肺炎ニ寶斐多利斯ノ

大量ヲ用フ

(Therap. Monatshefte Heft 2. 91.)

N. Pirego 氏ハ格魯布肺炎ニ寶斐多利斯ノ大量(二十四時間中四、〇ヲ侵劑トシテ用ユ又場合ニ由テ八、〇ニ達スルコトアリ重症ナル者ニハ二乃至四日間持續ス一嘔氣及中毒症狀ヲ見サルヲ要ス一)ヲ用ユル時ハ熱及脈下降シ局所ノ症候大ニ緩解スルヲ經驗シ且ツ統計上死

亡數ノ大ニ減少スルヲ見タリ

◎撒里比林 Saliprin ニ就テ

(Zeitschrift f. Therapie No. 12, 91)

「サリピリン」ハサルチル酸及安質比林ヨリナリ (Antipyrinum salicylicum) $C_{13}H_{15}N_2O_4$ ノ符合チ有スル者ニシテグットマン 氏ハ治療的ノ試験チ行フテ左ノ成績ヲ得タリ (第一)「サリピリン」ハ熱性体温ヲ下降セシム此下熱作用ヲ確實ニスルニハ高度ノ稽留熱ニハ一、〇—二、〇ヲ一回量トシテ全量六、〇ヲ要ス然ルキハ一度半乃至二度ヲ下降シ其最下度ニハ三四時間ノ后ニシテ達シ再ヒ漸ク上リ四五時間ニシテ舊ノ熱度ニ至ル、体温ノ下降ト共ニ不快ナラサル發汗及脈膊ノ減少ヲ伴フ稽留熱ニ於ケルヨリモ弛張熱ニ於ケル作用ハ強クシテ且ツ下降ノ度ニ應シテ永ク持續ス蓋シ此顯象ハ總テノ下熱藥ニ見ル者ナリ

(第二)「サリピリン」ハ急性「リチマチス」ニ良効アリ之レヲ用フレハ疼痛及腫起減少シ關節ノ運動ハ快復ス然レモザロル、アンヂヒリン等ノ如ク再發ヲ防クノ力ナシ其一回ハ一、〇ニシテ毎二時之レヲ與ヘ一日ノ全量六、〇ヲ用ユルニアリ

(第三)「サリチピリン」ハ慢性リヨマチス及リヨマチス性坐骨神經痛ニモ効アリ

(第四)「サリピリン」ハ他ノ不快ナル副作用チ起サス毎日六、〇ヲ用エテ一—二週以上持續シ全量七〇、〇乃至一〇〇、〇ニ達シタル患者ニ於テモ副作用チ目撃セス只一ノ患者ニ於テハ全身ニ蕾疹性發疹ヲ來セシコアリト雖モ三四日ニシテ消失セリ但シ尿ノ色ハ變化セカリシ而シテ尿中排泄スル「ザルチル」酸ハ格魯兒鉄ニ由テ證明スルコトヲ得

右ノ試験成績ニ由レハ「サリピリン」ハ安質比林、氷楊

酸ノ如ク治療上ノ目的ニ用フルヲ得ル者ナリ

(以上十項) 飯森益太郎抄譯

◎神經疾患ニ鉄劑ノ注入

(D. M. W. 1891, No. 30)

Rosenthal氏ハ神經疾患ニ鉄劑ノ効能アルヲ稱ヘ種々ノ鉄劑ニ就テ試験セシニ鉄ハ注入後三十乃至四十分ニシテ吸收セラレ一定時ヲ經テ尿中ニ現出ス而シテR氏ハ殊ニ左ノ二法ヲ稱用セリ其一ハ格魯兒鉄ト百布聖液ヨリナル百布頓鉄ニシテ青黃色ヲ呈シ容易ニ水ニ溶解スル粉末ナリ之レヲ用フルニハ一ト十ノ水溶液トナシ二日毎ニ一箇ヲ注入スルニアリ、其二ハ阿列布油ヲ以テ稀薄トナシタル一ト二〇比例ヲ有スル鉄油ニシテ前ト同一ノ方法ニ依テ用フルナリ、此法ノ長所トスル處ハ溶解シ易キト永續スルモ害ナキニアリR氏ハ之レヲ神經衰弱ノ人ニ稱用シ又衰弱性ノ消化不良ヲ有スル貧血ニ

シテ他ノ鉄ヲ用フルニハ直チニ消化障害ヲ來ス者ニ用ヘタリ蓋シ此鉄劑ハ決シテ不快ノ副作用ヲ來スヲナシト云ヘリ

◎關節痲質斯ノ療法

(Pharmaceutie gazette)

關節ロイマチスニハ患部ニ左ノ藥劑ヲ塗擦シテ効アリ

坐魯兒 依的兒 各四、〇 コルロド 二〇、〇

◎枯草熱ノ療法

ウニオン醫事雜誌ハ枯草熱ニ左ノ藥劑ノ効アルヲ報セリ即

硼酸末 二、〇 水楊酸曹達 二、五

鹽酸古加因 〇、一二

右鼻内ニ吸入ス、眼病ニハ硫酸銅或ハ硫酸亞鉛ノ洗滌ヲ行ヒ又病ノ初期ニアリテハ沃度依的兒十滴或ハ「アミールニトリト」三滴ヲ吸入セシムルモ可ナリ蓋シ患

者ハ發病居所ヨリ遠ケルヲ要ス

◎Styron 慢性中耳病ニ効アリ

Chalsoft 氏ハ「スチロン」ヲ他藥ノ効ナキ慢性中耳疾病ノ八「フアル」ニ用エテ良積ヲ得タリ其法ノ一ハ結晶其儘ニシテ他ハ液体トシテ應用セリ併シ兩法共同一ノ効ヲ有スルト雖モ液体ヲ以テ良トス、C 氏ハ此亞爾箇係兒溶液ヲ應用セリ但シ亞爾箇係兒ハ別ニ膿ノ流出上善良ノ成積ヲ及ボサ、ルカ故ニ此療法ノ間ニ膿ヲ洗出スヘシ斯クスルト雖モ「スチロン」ノ効ハ決シテ消失セサルナリ

◎蕁麻疹ノ療法

(Dauts. med. Noehens, No. 32.)

Quinquard ハ蕁麻疹ニ亞爾加里劑ノ内服ヲ與ヘ若シ効ナキ時ハ亞砒酸奈篤倫或ハ「ナプートル」ヲ用ヘタリ又甚タシキ痒様アル者ニハ左ノ方ヲ用フ

硼酸 三〇、〇 含水格魯刺兒 五、〇

蒸留水 一八〇、〇

右洗滌料トス、又方

水楊酸 五、〇 酸化亞鉛 一五、〇 澱粉 三〇、〇

右散布料トス

◎脫毛藥

脫毛ノ目的ニ不良ナラサル者トシテ硫酸ストロンチウムヲ應用ス

◎流行性寒冒ニ「ザリチン」

B. Turner 氏ハ二百人ノ「インフレンツァ」ニ「ザリチン」Salicin ノ大量ヲ用エテ良効ヲ得タリ其法ハ二十八チ一時間毎ニ分服(夜ハ三時間毎)セシムルニアリ此ノ如クスレハ通常ハ熱二十四時ニシテ平温ニ復シ且合併症ヲ來スカ如キヲナシ

◎慢性下痢ノ療法

慢性下痢ニハ左法ヲ每一時一食ヒツ、與ヘ奏効スルマ

テ持續ス

坐魯兒 三、〇 蓖麻子油 一五、〇

大黃舍利別 三〇、〇 桂皮水 一二〇、〇

亞刺比亞護謨 適宜

◎三叉神經痛ノ簡易療法

Lothe氏ハ三叉神經痛ニ食鹽抹ヲ吸入或ハ散布器ヲ以テ患側ノ鼻腔内ニ散布スル法ヲ四十人患者ニ用ヘ良積ヲ得タリ但シ内三人ハ全治セント雖モ二人ハ無効ナリキ

◎偏頭痛ノ療法

偏頭痛ニ左法効アリト云フ即チ

杓橐酸 コッフイン 〇、一 フェナセチン 〇、一

乳糖 〇、二五

◎丹毒ノ一齋療法

Dr. Rose氏ハ四肢或ハ軀幹ノ丹毒ニ持續性ノ温浴ヲ用エ良効ヲ得タリ通常廿四時ヲ經過スルキハ疼痛及熱ハ消

失シ一二日ヲ出テスノ治癒ス

◎舌ノ蕁麻疹

(Deuts. med. Wochens. No. 29)

Boeck氏ハ三十八歳ノ男子ニ於ケル舌ノ蕁麻疹ノ一「ファル」ヲ報告セリ其症狀ハ俄然ニシテ舌ハ非常ニ腫起シ咽喉ハ水腫狀ヲ呈シ言語困難トナレリ依テ亞篤魯品ノ皮下注入ト同時ニ他ノ普通療法ヲ行ヒシニ以上ノ症候ハ速ニ消散セリ

◎癌腫ノ「ビオクタニン」療法

(Deut. Med. Woch. No. 29.)

V. Schlen氏ハ癌腫ニ「ヒオクタニン」ヲ用ヘテ卓効アルヲ經檢セリ即七十歳ノ老人ノ頰ニ生シタル十「ペンニッヒ」大ノ潰瘍性腫物ニ初メ「レゾルチン」ヲ用ヘタリシカ后ニハMoesbig氏ニ從テ「アニリン」色素ヲ應用セリ其法ハ之レヲ單味ニ用エ「伴創膏」及阿膠ヲ以テ固着

セシテタリ蓋シ此療法ハ初メハ非常ノ疼痛アルヲ以テ

「コカインアンチピリン」ノ罌法及沃度仿硼酸抹ニ由テ
緩解セシメタリシ、之レヲ用フルコト五日ノ後ニ至リ分

分泌物著シク減少シ腫瘍面扁平トナレリ、綳帶ノ交換ハ
初ニハ二週二回、后ニハ一回之レヲ行フヘシ然ルキハ創
縁ヨリ上皮ヲ生シ少シク色付キタル癩痕ヲ以テ治癒ス

◎陰部瘡癬ノ療法

Balfour氏ハ陰部或ハ肛門ノ瘡癬フルリチツスニ左法ヲ稱用ス

甘 汞 五、〇 ワセリン 三五、〇

◎慢性濕疹ノ療法

Patterson氏ハ慢性濕疹ニ「クレオリン」ヲ稱用セリ殊ニ
分泌物多キ者ニハ罌法トナシテ用キ後療法トノ其軟膏
ヲ用フ通例ノ者ハ大抵之レヲ以テ治ス (以上Dcuts.

med. Wochenschr. No. 34, 1891)

右十五件 界外仙 史抄譯

◎硼酸ノ中毒

Lemoineハ是迄吾人カ無害ナリト信用セシ硼酸ノ洗滌
ヲ行ヒ中毒ヲ起セシ實驗ヲ報告セリ其重ナル症狀ハ紅
疹、眩暈ヲ起シ嘔吐ヲ發セシ等ナリ (無名氏抄)

雜 錄

◎長與專齊氏ノ演說

左に記する所のものは去月廿九日金谷館内に於て開會
したる大日本私立衛生會金澤支會臨時總集會の席上に
於て長與氏カ演說せられたる大意を會員カ筆記せるも
のなり然れども全氏の檢閲を経たるものにあらざれば
本文に關せる凡ての責は記者之れに任すべし

私ハ此度福井縣ノ衛生會ヨリ招カレテ北陸地方へ參
リマシタカ尙金澤ノ衛生會ヨリモ御招待ヲ蒙リ今日
此處ニ於テ諸君ニ御目ニ掛ルノハ實ニ私ノ満足スル

所テムリマス殊ニ只今モ承リマスレハ會長モ新ニ撰
 舉セラレ當縣知事カ御當撰ナサレタノハ益々本會ノ
 隆盛ニ趣ク基テムリマスカラ御祝儀ヲ申ノ置マス
 儲テ私カ今日御當所ニテ衛生上ノ御話ヲ申上ルニハ
 金澤地方ノ形況ヲ充分知テ居ラテハ到底六ヶ敷イ事
 テ、明治十五年ノ頃ニ一寸御當地ヘ參リマシタケレ
 凡其時ニハ折惡シク東京ニコレラカ流行致シテ直ク
 歸リマシタカラ、金澤ノ事ハ只衛生會ノ雜誌ヤ縣廳
 ノ報告テ知テ居マス計リテス、夫故ニ今金澤地方ニ
 就テ衛生ノ御話ヲスルコトハ出來マセン、只衛生上運
 動ハ如何ナル方向ヲ取ルヤ、ト云フ題ヲ掲ケテ少シ
 ク御話申シ諸君ノ御參考ニ供シタイト思ヒマス
 今、衛生會ノ將來ニ就テ運動ノ方針ヲ述フルニハ先
 從前ノ成立カラ御話セネハ分リマセン、故ニ面倒テ
 モ之ヲ單簡ニ申上ケマス

衛生々々ト八ヶ間敷云フ様ニ成タノハ實ニ昨今ノ事
 テ、人間カ發生スレハ自然ニ衛生ト云フ者カ行レテ
 居ルトカ云フ六ヶ敷哲學上ノ理論ハ指置テ、公衆衛
 生ハ日本ニ於テハコレラカラ起ツタト云フモ大ナル
 間違ハアリマセン、其譯ハ明治六年ノ頃初メテ文部
 省ニ醫務局ト云フ者カ出來其翌年之ヲ内務省ニ移シ
 衛生局カ出來マシタ、然シ、其時分ハ只醫制ヤトカ、
 藥學ニ關スル僅カノ事シカ取扱マセン、只衛生上ノ
 コトハ牛痘ノ事計リテムリマシタ、所カ明治十年西南
 ノ役ノ終ニ兵隊ヲ乗テ歸タ所ノ瀛船和歌ノ浦丸ニ初
 メテコレラカ起リ、漸ク九死ヲ出テ、一生ヲ得タト云
 フ兵士カ又々コレラノ爲メニ迷途ニ趣クト云フ慘狀
 ヲ來シマシタ、ソコテ俄ニ豫防法ヲ行ヒマシタケレ
 凡漸々神戸ヤ、横濱ヤ、東京、大坂ニモ蔓延シマシタ
 故ニ之レテハナラヌト云フノテ、西洋ノ法ニ倣テ一

夜漬ノ虎列刺豫防法カ出來マシタ、是レカ即チ公衆衛生ノ初リテムリマス

不幸ニモ明治十四、五、六、七、八年ト流行カ重リ且ツ劇シクナリマシタカラ、政府カ之ニ費ス金額モ多ク人民カ失フ處ノ命モ少ナクナイ、スルト工業カ振ハントカ、商業カ衰頽スルトカ、一般經濟上ニ大ナル影響チ及ホス様ニナリマシタカラ、色々ノ苦情カアルニ係ラス年々歳々豫防法カ嚴重ト成リ明治十九年ニハ充分嚴ナル豫防法カ出來マシタ、之チ文字上カラ見レハ外國ノ者ヨリモ尙完全シテ居リマスカ、併シ人民ニ衛生思想カナイノテ政府ノ所置ニ對シテ不滿チ抱キ巡查ヤ檢疫吏チ嫌惡ノ之チ免レヨウトスル、從テ政府ハ何處マテモ退カケルト云フ有様テアルカラ、自然人民ト政府ハ背合セニナルヨウニ成リマシタ、蓋シ此等ノ事ハ只法律上計リテ押通シテモ人心

ノ内部ニ立入ルヲ出來マカライケマセン、ソコテ官民カ相談ノ上外國ノ例ニ倣テ大日本私立衛生會ト云フ者ヲ設ケマシテ、コレラ、ヤ、チフス、ハ斯々ノ者テ、石炭酸ヤ石灰ハ斯様ノ者テアルト云ヒ示スカ如ク、裏面ヨリ一般人民ニ衛生思想チ吹込ム様ニ成リマシタ、之カ丁度十五年コレラ流行後乃チ十六年ノ事テス、之レト同時ニ各地方テモ其支會カ出來テ同一ノ運動チスル様ニナリ月々一回ツ、コレラ豫防ノ話テモスルト耳チ傾ケル人カ多クアリマシタカ、段々談カ高尙トナル、スルト普通人民ニハ分ラヌ様ニナルカラ丸テ醫者ノ樂屋話トナリ、或ハ話ニ面白味ヲ附ケル爲メニ外國ノ話チスル、成程之レハ耳新クシテ面白イケレト家ニ歸テ實地ニ之チ行ハントスルト少シモ出來マセン、コト云フ事カ原因テ衛生會カ段々衰弱シ後ニハ衛生會ト云フ者ハ醫師ト縣廳ノ役人

カ内輪話ヲスル處デアルトカ、衛生ハ免角贅澤ナ
物テ經濟カ許サヌトカ云フ様ナ境遇ニ立チ至リマシ
タ

此ノ如ク衛生ノ事ハ人民カラ嫌ラワレル様ニ成リマ
シテモコレラナトカ流行スルキハ政府ニモ捨テ置ク
事カ出來ス、イヤテモ干渉セテハナラヌ、是レハ即チ
政府カ人民ヲ保護スルト云フコトテ、一村或ハ一町カ
コレラニ權ルトキハ所謂國家ノ生産力ヲ消耗スルカ
ラ、イヤテモ政府ハ之ニ干渉スル義務カアリマス

然ルニ此ニ都合ノヨイ事ハ一昨年市町村制カ發布ニ
ナリマシテ自分ノ事ハ自分テ治メネハナラヌ、即チ
地方自治ト云フ事ニ成リ法律ノ範圍内ニ運動スル以
上ハ政府カミタリニ干渉セヌト云フ主意テ、一市一
村ノ利害ハ一市一村テ負擔スル様ニナリマシタ、故
ニ傳染病豫防心得モ昨年發布セラレ從前トハ其趣キ

ナ異ニシ、人民ノ方テ各自保護セテハナラヌ有様ト
ナリマシタ、例之テ見ルト此ニコレラカアレハ水道
ヲ改良スルト云フ様ナ事ハ市參事會等テ引受テ世話
ヲセネハナリマセン言ヲ換テ申シマスレハ一市ノ不
利、不面目等ハ市會カ其責任ヲ負ハチハナラヌ等テ
ス、併シ日本ト云フ所ハ開關以來自治ト云フ事ハ夢
ニモ見タコカナイ、夫故自カラ世話スルト云フコカ
出來ナイ、他ノ事ハイサ知ラス衛生ハ多少専門ニ屬
スルコトカラ一般人民ハ凡テ豫防ノ必要ヲ知ラス又
之レカ爲メニ多量ノ金錢ヲ費スモ二階カラ目藥ト云
フ程モ效能カナイト思フテ居ルカラ單ニ之ヲ市會ニ
任イテ居イテモ不安心ナ者テムリマス、ヨシヤ市會
カ世話ヲシテモ人民カ從ネハイカヌ又人民ハ衛生ノ
事位ハ充分行届カス凡各市各町村ノ獨立ハ充分出來
ルト考ヘテ居ルノニハ大ニ閉口致シマス

私ハ先年英國ニ行キマシテ彼ノ國ノ衛生會ヲ見テ非常ニ感シマシタカムリマス、其成立ハ市、町、村ノ長カ主トナリマシテ醫者ヤ官吏ヤ工學者ヤ經濟家及其所ノ名望家カラ成テ居ル夫故若シコレラ、チフスナトカ流行スルキハ醫者カ其原因ヲ研究シテ之レハ水道カ惡イノテアルカラ之ヲ改良セテハナラヌト議案ヲ出スト工學者ハ之ヲ見積リテ幾何價ノ金ヲ要スルト云フ、ソコテ經濟家ハコレハ一村テ迎テモ引受ケルヲ出來ヌカラ鉄管ノモノヲ陶管テ堪忍スルト云フ様ナ工合ニシ、又一方ニハチフス、コレラノ爲メニ死亡スルト生産力カ幾何程消耗スルト云フ事ヲ勘定シテ議案ヲ纏メ之ヲ郡會ヘ持出シマス、スルト初メニ能ク調テアリマスルヲテスカラ滿場一致ヲ以テ可決シ、只其金ヲ取立ツル方法ノミヲ相談スル丈ケテ議論カ百出スルト云フ様ナ事ハムイマセン、從テ郡

長ヤ村長カ非難ヲ受ケルヲモムリマセン、併シ日本ニテハ未ダケ様ナ旨イ譯ニハ行キマセン假令會カ出來アツテモ兎角理論ニ流レテ、只醫者ト官吏ノ受持トナリテ人民カラハ段々遠カル様ナ有様テアリマスケレバ、今テハ市町村制カ發布セラレ自治ト云フ事カ出來又本會ニ於テモ會長カ新ニ撰擧セラレマシタカラ衛生會ハ單ニ醫者ヤ官吏ノ專有物トセスシテ市會ノ人々ヤ、衛生組長ヤ、民間ノ名望家ナトカ金澤十萬ノ人民ヲ代表シテ此事ニ盡力シ、學術上及實地上カラ衛生上ニ關スル利害ヲ研究シテ地方ノ安寧ヲ計ル様ニ願ヒタイモノテス、ケ様ニ致シマス只醫會ノ諸君及縣廳ノ御役人計リテナク市會ノ人々カ衛生會ヲ利用シテ市政ヲ圓滑ニ行フヲハ丁度英國ノ様ニシテモライタイモノテス
只今金澤ノ衛生上ニ付テ其欠點ヲ御話シ申ソト思ヒ

マスケレト、先ニモ申シタ通金澤ノ形況ヲ知リマセ
ンカラ出來マセン、併シ金澤地方ニハ傳染病カ多ク
シテ生産力ヲ消耗スルノ著シキトハ統計上テ分リ
マス、殊ニ中等以上ノ人民カ用フル處ノ生産的貧民
ハ惡性ノ傳染病ニ罹リテ死亡スルモノカ多クムリマ
ス、其理由ニ至テハ己ニ諸君カ御存知ノ事ト思ヒマ
スケレト満場諸君ノ中ニハ非醫者ノ御方モ澤山御出
ノ様ニ見受ケマスカラ一通申上マス

總テ傳染病例之ハチフスノ様ナ病ニハ一ノ種カアツ
テ其種カ糞便ノ中カラ他人ノ口中へ入込ムカラ傳染
スルノテス、斯様ニ申スト諸君ハ戯談ニナサルカモ
知レマセンカ、其病毒ハ忽チニシテ繁殖スル性質ヲ
以テ居リマス、夫レ故ニ若シ糞壺カ桶テコシラヘテ
有テ漏ルトカ、或ハ瓶テモヒツカ入テ居ルトカ、或ハ
糞カ溢レルトカスル時ハ一個ノ病毒ト雖ト忽チ幾千

万ト知レナイ數ニ繁殖シマス殊ニ濕氣ノアル處ニ行
キテ段々蔓延シ遂ニ井戸ノ水ヤ水道ノ中ニ入込テ人
体ニ達シ其命ヲ奪フ様ニナリマス、斯ク申スモ甚縁
遠イ様ナレ御話ナレト一タヒ病毒カ地中ニ入ルキハ
地下水ト云フ者カ四方八方ニ流通シテ居リマスカラ
之ト共ニ忽チ四方ニ蔓延シテ非常ナ人命ヲ失フ事ハ
己ニ諸君カ御見聞ナサレタ事ト思ヒマス

併シ此ノ如ク傳染病ハ恐ルヘキモノテアルト云フ
チ一人々々ニ知ラスルトモ出來マセン、故ニ衛生組
長ナトハ之ヲ衛生會ヨリ其部下へ取次ヲシテ、下水
ノ所置トカ井戸換ノ方法ナトニ付テ互ニ相談シ實地
ニ行フキハ一人傳リ二人傳リシテ遂ニハ政府ノ御難
題ヲ受ケスレ之ヲ普及スルトカ出來マス、故ニ衛生
ノ事ハ政府ノミニ依頼セスシテ自治ニ任スノカ宜シ
イテス、ソ―シマスルト例令一人ノ傳染病患者アリ

マシテモ一市或ハ一町ノ休戚ニ關シマスカラ放置シテ置クコカ出來ヌ様ニナリマス、私ハ市會ヤ村會ヲ組織シ居ル人々カ衛生會ヲ機關トシテ之ヲ實地ニ行フコカ出來ル様ニ希望致シマス

其他私ハ醫師諸君ニ向ツテ述ヘタキコトモムリマスカ開ハ他日ニ讓リ今日ハ之レヲ御免ヲ蒙リマス、尤モ私ハ病後テスカラ聞苦シイ事及御話申シタコカ地方ニ適セヌコトモムリマシヨウカ何分御取捨ヲ願ヒマス、此演說ヲ終ルニ臨ンテ會員諸君ノ健康ト本會ノ隆盛ヲ祈ル

◎今井氏の新方類函と評す

愛夢道人

近時醫書を著す者、續々踵を接て輩出し、外科に、内科に、眼科婦人科又た産科、其數殆んど數ふへからず、恰も是れ、十九世紀は著書の時代と云ふも過言にあらさ

るへし然りと雖ども、充棟汗牛の著書中、完全無缺にして妄りに高尚の空論を吐かず、弊陋に陥らすして、能く其中庸を穿ち、眞に實地醫家の好伴侶となり、醫學生の良師友たる者果して幾何と、蓋し寥々寂々、曉に星を見るか如くならむ、寧ろ表装の華美を専らとし、官級位階を看板となし、人を偽り世を欺くの徒多さを奈何せん、所謂鹿足を懸て、馬肉を賣る者、滔々たる天下皆な此類なり、之れ他なし、昔の人は他人の爲めに書を著し、今の人自身爲め書を著すなり否、聖賢は書を作りて名譽を受け、凡夫は書を作りて金錢を貪るに依る、若し夫れ著譯者にして、徳義の何者たるを辨せず、只利を得る事に而已吸々として不完全有欠點の書を公にし、或は原著の意を誤譯して、後進を誤るか如きあらば、啻に箇人的の敗徳者たるのみならず、社會に對して無形形的の有罪人たるを免るへからず、

世に新方類函なる書あり、其著者は雜誌界の長老たる、今井玄三松氏にして能勢靜太氏の関する所なり、紙數二百頁に足らずと雖ども、藝名に應じて數千万の處方例を掲げ、且つ其主治用量を載せ、傍ら日常臨床上に必要なる事は、一として漏す所なし、余は錦囊てふ文字の初て此書に適當なる附け場所たるを發見せり、左れば第一板は未だ期年ならざるに悉く書舖を辭し、今や又第二板を刊行するに至れり、殊に今回發行せる者は、改正日本薬局方の順序に倣ひ、且つ新藥數十種を加へ増補訂正、大に其面目を一變せり、黴菌検査を要する處、水の檢法指に従て出て、尿を檢せんと欲する處、新藥の極量、紙に應じて現はる、余輩は斷々乎として、此書か實地醫家の益友にして、醫學生の嚴師たるを揚言する者なり、

本會記事

◎第二十六回常集會記事

同常集會は例に依り去月十八日午後一時より第四高等中學校醫學部に於て開きね、集同する者二十三名木村、飯森、牧野等諸氏の演說あり尙裁判醫學上の問題に付き討論すへき筈なりしかと出題者たる山田氏公用にて河北郡へ出張の譯を以て次回に譲る事となし午後六時頃散會せり

●第一席 木村孝藏(頭部肉腫ノ一例)

氏は近頃手術せられたる頭部の大肉腫に就き該患者の病床經過、手術の順序及一般肉腫に於ける鑑識等を述べ終りに善良經過を以て將又退院せんとする肉腫の主人公及び切除して亞兒箇兒中に貯藏せる「ブレパラ」を會員に示されたり

●第二席 飯森益太郎(竹を以て胸廓を穿孔せる一

「フアール」)

氏は十四歳の童か柿樹より墮落せし際垣に用へたる竹を以て左第五肋間より右第二肋間に向て穿通せる稀有の一治験を報告せられ「コロ、ホルム」麻痺中に摘出せられたる大なる竹片を「デモンストラチオン」せられたり

◎第三席 牧野填一(防腐薬に就て)

氏は近來外科術上に應用する防腐薬の黴菌繁殖上に及はず關係より其優劣、實用上の便不便を説き就中昇永に就き氏か陸軍に於て經驗せられたる斬新奇抜なる一説を公にせられたり

◎會員動靜

◎會員岡田剛吉氏 は今度本市大工町四十三番地へ轉居せられたり

◎會員木村孝藏氏 は味噌藏町下中町九十三番地へ轉寓せらる

◎會員森島重太郎氏 は今度歸省せる上田計二氏と共に金澤の中央に一大私立病院を設け將に北陸醫界に雄飛せんとする計畫ありと聞く

◎會員佐藤精倍氏 は今度第四高等中學校の特待生に撰拔せられたり是れ獨り氏自身の榮譽なるのみならず本會も又其幾分を荷へりと云ふへし

◎會員今井亥三松氏 は自著の新方類函一部を本會へ寄贈せられたり余輩は謹て其好意を謝す

◎會員山田謙治氏 は今度梅本町西横丁一番地へ移轉せられたり

◎會員高安右人氏 も又た味噌藏町裏丁 番地へ轉宅せられたり

◎會員藍澤鼎氏 は今度直方と改名せられたり

◎會員黒川庄太郎氏 も又由巳と改名せらる

◎寄贈書目

外科總論下卷二	桂 秀馬君
新方類函一冊	今井亥三松君
國家醫學會雜誌第五十一號	同會
杏林之槩第三卷五號	同會
熊本醫學會雜誌第五十八號	同會
北越醫學會々報第四十二號	同會
大坂興醫學社月報第三十一號	同會
北海道醫事講談會月報第二十九號	同會
衛生療病誌第二十號	同會
岡山醫學會雜誌第二十號	同會
私立獎進醫會雜誌第三年四號	同會
醫事研究會申報第四十號	同會
東京醫學會雜誌第五卷第十五、六號	同會
成醫會月報第百十五號	同會

◎新入會員

富山縣魚津	阿波加 蕃君
全 福光	西村 藥磨君
石川縣金石	小島 實君
全 大聖寺	坂井迪太郎君

時 事

●學課目改稱 (官報)

帝國大學に於ては今回醫科大學醫學科課目中裁判醫學を法醫學と改稱せられたる由今其理由を聞くに抑も醫學の應用は治療、衛生、及法律の三途にあり而して此法律上應用に又立法上應用と司法上應用との別あり然るに從來此法律上應用を專攻する學科を斷訟醫學又裁判醫學と名稱せり單に司法上より論するときは是にて可なりと雖とも立法上より論するときは甚た不可なり蓋し此名稱たるや専ら司法上に偏して毫も立法上の意味

を含有せず意義狹隘にして其名亦此學旨に適合せず例之は法律學を指して尙ほ裁判學又は斷訟學と言ふに全し世人か往々此學の本旨を誤解する原因も亦茲にあり是れ其改稱せし所以なりと云ふ

●法醫學科の新設

法科大學に於ては今度新たに法醫學の一科を増設する事に内決せし由然し之を正科として教授するは尙三年の後にあり即ち當今の第一年生か第四年生となるの曉より始めらるゝを以て夫れまでは學生中有志者の隨意科として之を教授せらるゝ、由其開講は多分明年一月にして醫科大學教授醫學博士片山國嘉氏之を擔當し各裁判所判事、檢事は勿論警察官吏、代言人等にも隨意に傍聽を許さるゝ、ならんと云ふ抑も法醫學の關係は實に司法上に止まらず立法上亦甚だ緊要なる關係を有するは夙に世人の了知する所にして此學の改良進歩を計らむ

と欲せは須らく法官警察官をして其一斑を知らしむるを要する事は常に吾人か稱道する所なる而已ならず或る學者は將來刑法學の原理を一變するものは恐くは此學科就中之に隨伴せる刑事人類學ならんと云へり然るに我邦に於ては從來法醫學と法律學との間兎角親密を欠くか如き嘆なき能はざりしか本邦法律學者の淵源たる法科大學に於て此學あるに至りしは將來益、斯學の進歩發達する期して待つへきなり

●新任教授

衛生試驗所技師兼大坂衛生試驗所長從七位櫻井小平太氏は去る十二日第四高等中學校教授(七級俸下賜)に任せられり

●卒業試験

第四高等中學校醫學部第四回卒業試験は去月 日より相始められたるか來る十二月十日頃に終結する筈なり

と該受験生は總數二十名なりと聞く

◎特待生

當醫學部學生佐藤精伍(第四年級)山秋勘之助(三年生)
吉田和三郎(同)村山有(二年生)の四氏は何れも當學年
特待生を命せられたりと

◎舊藩主の參觀

舊藩主前田侯爵御夫婦には去る十七日木村主事の誘導
にて醫學部各教室殘らず巡覽なされ次に金澤病院を參
觀せられたり因に記す同侯爵は今度第四高等中學校獎
勵費の方へ金五拾圓寄贈せられたると申すとなり

◎日本藥局方藥物論

第四高等中學助教授田中正鐸氏は今般題名の如き書を
著述せらるゝ由そは日本藥局方所載の藥物に就て一々
其生理作用、醫治效用、用法用量、製劑及其處方列に至
る迄悉く記載せるものにして頃日は日夜孜孜として右

著述に取懸り居らるを以て其成功蓋し遠きにあらざる
へし

◎一年志願軍醫生入隊の撰定に就て

大學并に各高等中學校醫學部にて醫學を修めたる者は
兵役に服するに當り一年志願兵たるを得るの資格ある
は皆人の知る所なるか此一年志願兵たる者は何地の何
隊へ入隊するのとを志願し得る者なる故に其志す所
の軍隊に入るとを得るなり然るに各軍隊の規律は齊一
なるも一年志願軍醫生となり醫學上の研究をなすには
隊によりて得失一ならざるは嘗て實地此境遇を踏みた
る人より聞く所なり頃日記者石黒軍醫總監の邸を訪び
話次此に及ひたるに總監曰るゝに、こは至極尤の事に
て各隊軍醫諸氏各所長一ならず故に一年志願兵たらん
とする諸氏は像め其志す目的によりて其隊を撰はざる
可らざるは勿論なり故に余は此一年志願兵たらんとす

る者か其入隊の撰定につきての質問には懇ろに應ずへきに就き此資格を有し此志望を懐く人には此事を傳へられよと語られたり夫れ一年の日月は短きようにて短かゝらず此年齢に丁れる諸君は行て總監の示す所を受ければ其益蓋し大ならんと東京醫事新誌に見へたり

●コッホ氏後任者

マルブルブのドクトルマキス、ルプテル氏はドクトル、コッホ氏ニ代て伯林大學衛生學教授の教榻を占めたりルプテル氏は一千八百五十四年ミュンヘンに生れ一千八百八十三年同府大學の私講師に擧げられ同八十五年マルブルク大學に轉して員外教授となり八十七年同正教授となりたり」コッホ氏は今般新設されなる傳染病院を管理せむかために教授の職を辭したるなり然れども大學評議官は氏に名譽の地位を與へ隨意隨時講筵を開くことを認許すへしとなり

●藥學月報の休刊

金澤に石川藥劑師會なる者なり、縣下藥劑師の集同せる一團休にして、藥學月報は其機關雜誌なり、彼れ年を重ぬる事三年、號を積む事二十一に及ふ、余輩は月報を見る事兄弟の如く、又親友の如く思ひしなり、殊に柴山氏か挺身力を月報に盡せし以來、頓に藥學界の牛耳を取り、大に氣焰を吐露しつゝありしか、如何はしたりけむ、柴山氏の夭折と共に其跡を隠しぬ、余輩は茲に於て一人の良友を失へり、是れ全く同會員か熱心の度、高からざるに職由せずんは非らず、實に前途多望なる藥學界の爲めに痛惜すへき事ならずや然りと雖も彼れ全く玉の緒を切らせしに非らされは絶望するも大早計なり、若し彼會員にして現今藥劑師の地位如何を顧み、前途の多端なるを思はく今日の如く安眠を貪る事を得む、奮起せよ、石川藥劑師會の頭上には既に第二の柴山氏

臨降せり、何ぞ速に同心合意以て舊業を繼かざる、第二の柴山氏とは誰ぞ、曰く學術に秀て實地に長けたる、前の大坂衛生試験所長、櫻井の小平太殿是れなり、吾人は知る、氏か金澤に入るの日は、藥學月報蘇生の時なるを(愛夢道人投)

◎長與專齊氏の來澤

今回福井縣の衛生會へ出張せられたる同氏は再び金澤衛生支會の招聘に應じて去月二十七日來澤せられ同日は金谷館に於て『衛生會運動の方針』と題して一場の演説をなせり(載て本號にあり)聽衆は衛生會員、醫學會員、醫會員及び官吏等にして無慮二百餘名の多きに達せり右終りて同所に於て懇親會を開く會する者亦七十餘名二三の席上演説あり酒問互に衛生上の談話をなし午後十二時散會す其翌日は木村學士の誘導にて醫學部、金澤病院を參覽せられ二十八九日は會員の依頼に應し

て氏か特意の筆を揮ひ本月二日和倉の温泉に趣かれ神氣を養ひ再び金澤へ歸り其翌日歸京の道に上らたたり途次大聖寺に於て官民か催せる懇親會に臨み又一場の衛生演説を爲せりと云ふ

◎長與氏の演説振り

同氏か容顏魁梧にして侵すへからざる威嚴中又無量の愛敬を有する事は已に氏の警咳に接したる者の能く知る處なるか、其演段に登るや『私は病後て体か弱て居りますから充分なる意見を述ふる事か出来ませんかも知れまん』と云ふ冒頭を掲けたるにも係らず一たひ口を開くや千言万語淳々として訓なるか如く懇々として戒しむるか如し或人は之れを評して『長與さんの演説は恰も老婆か孫に物を教ふる様だ』と兎に角氏か明治醫界の老功者たる事は何人も許す所なり

◎金澤病院堂聞

●前田侯爵の御巡覽 今回金澤開始三百年の爲めに來澤遊はされたる舊藩主前田利嗣侯御夫婦は去る十七日金澤病院内を御巡覽なされ木村院長は病室、施療院、各科等一々御案内を申し殊に外科には數千の器械を陳列し其珍奇なる者に就て説明せられしを以て御夫婦とも御機嫌いと麗しく二三の御尋問あり、膀胱碎石器、疝門鏡などの解釋にて御笑を漂へつゝ午後二時頃御歸館あらせられたり

●救療患者有難涙に咽ふ 同侯爵御夫人か救療室御巡回の節患者の病苦に腦みていと憐なる有様を御覽遊はされ其勞を慰めんとて御菓子壹折つゝ下賜せられぬ、今に初めぬ事ながら同御夫人の仁惠なる救療患者をして感泣に堪へざらしめたり

●新築病室大風の爲めに吹倒さる 預て工事中なる新築病室は漸く立前を終ると同時に先達の大風の爲め、

無残にも吹飛され、柱躍り、板舞ふの狂態を演せしこそ氣毒なる、左れと未だ充分立ち上からざる前に於て風力の試験に落第し病人を傷けざる丈は不幸中の幸とも稱すへきなり、但し之れか爲めに落成期日は二ヶ月計も遅るゝと管理者は云へり

●三百年祭と患者數 今回三百年祭の爲め近郷近在より集ひ來たる者にして見物半分に診斷を乞ふ者非常に多く外科の如きは一日の新患者五十人の上に出て之れか爲め該科の醫員は時ならぬ飢餓試験の好材料となれりと云ふ

●患者數 目下同院一日の平均患者數は二百名計にして入院患者は通常の者七十一名救療四十三名なりと云ふ

●防腐的上衣 同院の看護婦か創傷の清潔接を保たんか爲め防腐的上衣を着せるは己に一年前よりの事

なるか之れと同一の目的にて外科醫員は患者を診する時及手術の際は必ず該上衣を着する事となれり

●醫員の一年志願兵 同院醫員にして一年志願兵となり來る十二月より入營する者三名あり曰く志田伊之吉氏、曰く鶴見金十郎氏、曰く生駒廣太郎氏は是れなり

廣告

本市大工町四十三番地へ

轉居 岡田剛吉

小生儀今度味噌藏町下中町九十三番地へ移動致シ候間此段辱知諸君ニ告ク

十月二十日

木村孝藏

本會々費明治二十四年後半期ノ分ハ七月中ニ納付スヘキノ處未タ御納付無之方々有之候ニ付至急御差出被下度此段廣告ス

金澤醫學會幹事